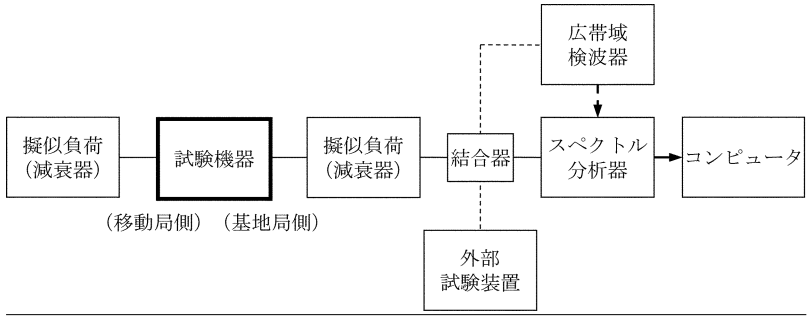
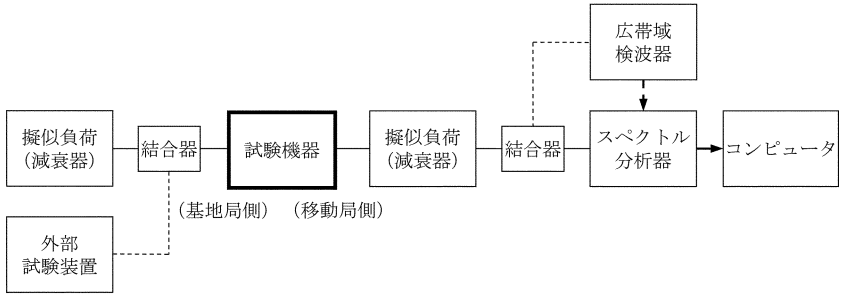
十一　副次的に発する電波等の限度

1　測定系統図

⑴　陸上移動局対向（下り）



⑵　基地局対向（上り）



2　測定器の条件等

⑴　測定対象が低レベルであるため、擬似負荷（減衰器）の減衰量はなるべく低い値にする。

⑵　副次的に発する電波（以下この表において「副次発射」という。）の探索時のスペクトル分析器は、次のように設定する。

ア　掃引周波数幅　副次発射の許容値が適用される周波数範囲

イ　分解能帯域幅　副次発射の許容値が適用される周波数幅

ウ　ビデオ帯域幅　分解能帯域幅と同程度

エ　Ｙ軸スケール　10dB／Div

オ　データ点数　測定精度が保証される点数

カ　掃引時間　測定精度が保証される時間

キ　掃引モード　単掃引

ク　検波モード　ポジティブピーク